

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（教育実践研究・特別研究）

研究代表者 所属・職名 人文・社会教育学系 教授
氏 名 志村 喬

研究期間 平成27年度～平成28年度

研究費 1,191,000 円

研究プロジェクトの名称	教科内容・教科教育・教育実践を横断した PCK 研究による教師の専門職的 力量の構造解明
研究プロジェクトの概要	本研究プロジェクトは、Pedagogical Content Knowledge（以下 PCK）論を基軸原理として教科専門・教科教育・教育実践を貫き、PCK 内容を多角的に考察することにより、専門職としての教師の「真正の力量」の構造を具体的事例で解明することを目的とした。 研究は、5 回の全体研究会及び参加者個人研究で遂行された。とりわけ、国内外から講師を迎えた第 1 年次の全体研究会 2 回は、公開としたためプロジェクト参加者以外の学内教員・院生らの参加を得て、2 年次の本プロジェクト研究以外へ及ぼした意義も大きかった。
成 果 の 概 要	個別の成果は報告書所収論文にあるが、総体的特長・成果は次である。 1) 修士課程担当教員と教職大学院担当教員との共同：本プロジェクトは、平成 27(2015) 年度に新規に設定された修士課程（教科・領域教育専攻）担当教員と専門職学位課程（教職大学院・教育実践高度化専攻）担当教員が共同研究を行う「特別研究」として採択された研究であり、両専攻の所属教員により組織体制が生まれ、研究が遂行された点に大きな特長がある。 2) 学校現場教員・現職派遣院生の参画：本学修士課程（社会系コース）修了生で本学附属小学校勤務経験のある小学校長、本学附属中学校勤務経験のある教諭（研究主任）を研究分担者とし、全体研究会参加に止まらず県外調査などが遂行された。さらに、研究協力者である現職派遣院生も全体研究会などへ積極的に参加した。 3) 国内外の研究者の招聘と研究交流：第 1 回全体研究会では日本における PCK 研究の第一人者である八田幸恵氏（大阪教育大学）を、第 3 回全体研究会ではマイケル・ソルム氏（アメリカ地理学会地理教育担当理事）を招聘し、公開講演会として開催した。その結果、本研究プロジェクトメンバー以外の、関心のある教員・院生からも参加を得、大学全体としての研究推進・交流にも貢献できた。 4) 分野・専攻や対象を横断した研究活動基盤の構築：上記のように学内に止まらず、学外の学校教育現場、さらには国内外の著名な研究者とも接点をもって遂行された本研究は、教科内容・教科教育・教育実践といった研究教育分野・専攻を超えた研究活動であり、その多様な成果は成果報告書内容に表れている。この多様でダイナミックな研究活動は PCK という主題であればこそ実現されたものである。それぞれの研究自体は途上であるといえるが、分野・専攻を横断する今後の研究活動の基盤が構築されたことは本研究プロジェクトの大きな成果である。
研究 成 果 の 発 表 状 況	『教科内容・教科教育・教育実践を横断した PCK 研究による教師の専門職的 力量の構造解明』報告書』全 46 頁(2017 年 3 月、【学内限り・内部資料】) 並びに各自の学会発表・研究論文（投稿中含む）